

お客さまの信頼に一層応える 健全な経営を実現するために

生保労連の経営の健全性確保に関する取組み

生保産業をめぐる環境が大きく変化する中で、わたしたちは、お客さまの信頼に一層応える健全な経営を実現するために、経営に対するチェック・提言活動等を通じて、労働組合としてのコーポレート・ガバナンス（企業統治）機能の発揮に努めています。

また、ISO26000の発行等に見られるように、CSR（企業の社会的責任）に対する関心が一層高まっている中で、生保産業におけるCSRの推進に向けた取組みの強化に努めています。

生保産業をめぐる現状

依然として厳しい生保経営

生保経営をめぐる現状は、依然として保有契約高の減少が続いている状況にあります。株価の低迷、低金利等により運用環境も厳しい状況にある中で、財務基盤の整備・拡充が引き続き重要な経営課題となっています。

また、生保市場についても、景気低迷、少子・高齢化の進展

等、厳しい状況が続いています。

こうした中、お客さまからの信頼を得るとともに、その信頼に応えていくためには、業務運営面から財務面に至るまで、経営全般の健全性確保・向上に向けた取組みがますます重要となっています。

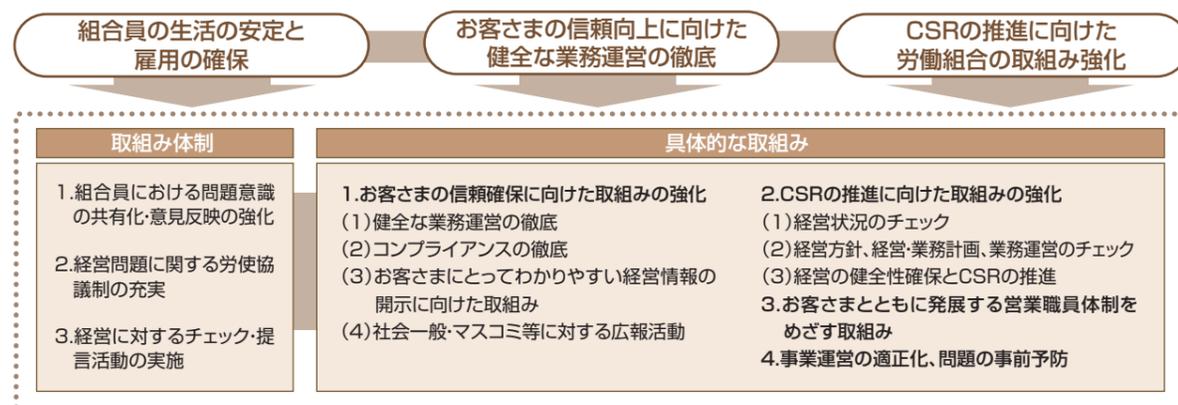
わたしたちの基本的な考え方

コーポレート・ガバナンス機能の一層の発揮に向けて

健全な企業経営・業務運営が求められる中で、コーポレート・ガバナンス機能の強化が重要となっています。コーポレート・ガバナンスはすべてのステークホルダー（利害関係者）による実践が基本となりますが、とりわけ現場の事情に精通した従業員（労働組合）の役割・機能発揮が極めて重要と考えます。

わたしたちは、経営の健全性確保に向けてコーポレート・ガバナンス機能を一層発揮していくために、組合員の問題意識の共有化・意見反映の強化、経営問題に関する労使協議制の充実、経営に対するチェック・提言活動の推進等、取組み体制の充実をはかりつつ、お客さまの信頼向上に向けた取組みを行っています。

◆生保労連の「経営の健全性確保の取組み」の全体イメージ

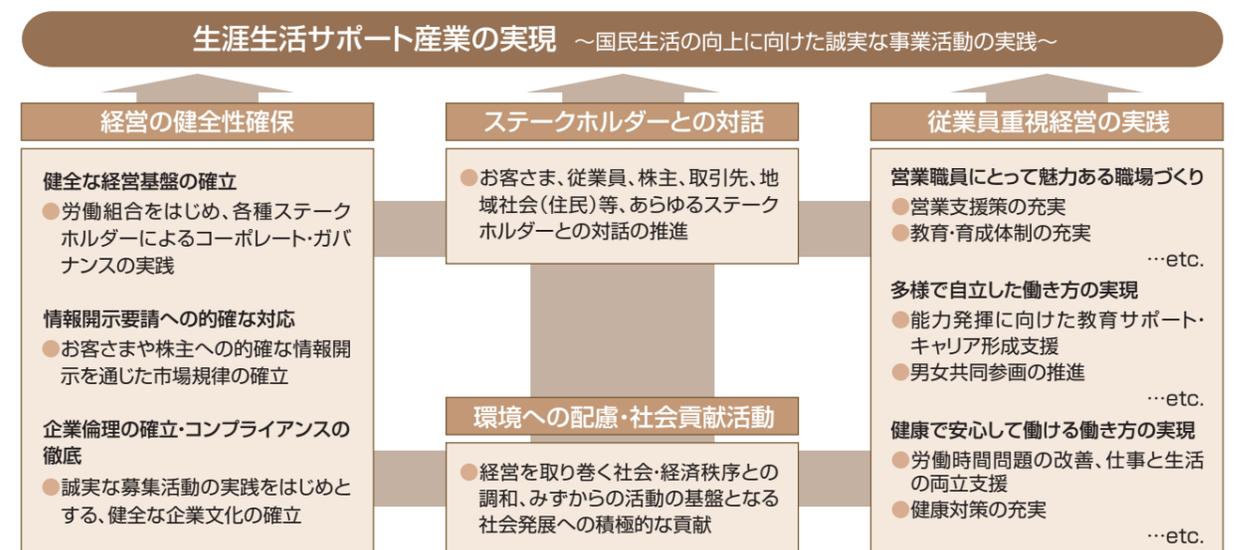


経営の健全性確保は「生保産業におけるCSR」を支える重要な柱

お客さまや社会が企業を評価・判断する上で、CSRの実践状況が一層重要な要素となっている中で、経営の健全性を確保することは事業発展の礎であり、CSRの重要な柱といえます。

わたしたちは、「経営の健全性確保の取組み」を「生保産業におけるCSR」を支える重要な柱と位置付け、CSRの観点からも本取組みを積極的に推進しています。

◆「生保産業におけるCSR」のイメージ



わたしたちの取組み

お客さまからの信頼向上に向けて労働組合としての取組みを強化しています

経営の健全性を確保していく上で、お客さまからの信頼を高めていくことは欠かせません。わたしたちは、直接お客さまとお会いすることで得た「お客さまの声」を背景に、健全な業務運営の徹底、コンプライアンスの徹底、適切でわかりやすい情報開示に向けて、積極的な労使協議を行っています。

特に、コンプライアンスについては、健全な業務運営の基本であり、経営にその徹底を求めるとともに、労働組合みずからも、現場で働く従業員の立場から、コンプライアンスの実効性確保に向けた一層の役割発揮に努めています。

労働組合の立場から経営に対するチェック・提言活動に努めています

わたしたちは、経営情報の開示を求めるとともに、経営状況、決算見通し等について定期的にチェック・フォローを行い、会社の経営・業務運営全般にわたり積極的な労使協議を行っています。また、会社や従業員の将来に大

きな影響を及ぼす経営方針、経営・業務計画、将来ビジョン等についても、課題認識の共有化をはかるとともに、労働組合の立場から積極的な意見反映を行っています。

事業運営の適正化、問題の事前予防に努めています

経営の健全性確保に向けては、常にお客さまの視点に立った事業運営が求められています。わたしたちは、事業運営の適正化に向けて、お客さまに近い現場の視点から、経営に積極的な意見発信を行うと

も、みずからも適正な事業運営の徹底に努めています。あわせて、「ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組み」等を通じて、従業員の職場環境や労働実態に問題が生じないよう取組みを進めています。

CSRのさらなる推進に向け 研究・検討を進めています

生保産業は、国民の生活保障を担う極めて公共性の高い産業です。わたしたちは、一人ひとりがこうした産業に携わる者としての自覚を持ち、あらゆるステークホルダーの中で

も最も長期かつ直接事業に係る者の立場から、しっかりと社会的責任を果たせるよう、みずからが果たすべき役割等について研究・検討を進めています。